

様式第五十の二（第48条第6項関係）

認定事業適応計画の（中間）実施状況の概要の公表 （令和3年度）

1. 認定の日付

令和4年3月25日

2. 認定事業適応事業者の名称

KDDI株式会社

3. 認定事業適応計画の実施期間

開始時期：令和4年3月

終了時期：令和7年3月

4. 認定事業適応計画の実施状況

（1）事業適応計画に係る事業の目標の達成状況

本計画では、5G時代の突入や新規事業者の参入といった当社を取り巻く変化を踏まえ、安定した通信で人・企業・社会をつなぐこと通じて社会の持続的な成長に寄与し、お客さまに寄り添い関係性を高めていくことを目的に当社の中核事業に位置づけることとしたライフデザイン領域・ビジネスセグメントの競争力を強化するため、従前のビジネスモデルから脱却し、これまでにない顧客体験を提供することを通じて、時代に合った顧客ニーズへ対応し、新需要を獲得することとしている。

この計画のうち、令和3年度においては、ライフデザイン領域では「お客様接点関連開発」と「決済関連開発」に、ビジネスセグメントでは「パートナーAPI基盤」に投資を実施した。

（2）生産性を相当程度向上させること又はその生産し、若しくは販売する商品若しくは提供する役務に係る新たな需要を相当程度開拓することを示す目標の達成状況

令和3年度は計画初年度であるため、新商品等に係る売上高伸び率を算定することは困難だがライフデザイン領域において投資額が少なく、一部分野にて売上が伸びなかったため、売上高の目標値を下回った。

（3）財務内容の健全性の向上を示す目標の達成状況

財務内容の健全性の向上指標については、令和3年度は有利子負債／CFが▲1.6倍となり、経常収支比率が164.8%となった。

（4）実施した事業適応計画の内容

令和3年度においてはライフデザイン領域にて「お客様接点関連開発」と「決済関連開発」に、ビジネスセグメントでは「パートナーAPI基盤」に投資を実施した。

ライフデザイン領域において予定投資額に対して投資額が十分でなく、売上高が伸びなか

った分野があったため、売上目標は大きく未達となり、新商品等の売上高は投資額の0.2倍にとどまっている。ただ、目標年度に向けて投資を加速し、目標（売上高を設備投資等の金額で除した値が10.21倍）の達成を図る。